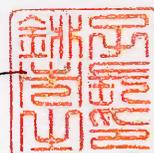


銚子電気鉄道への補助金の確保に関する要望

令和2年10月14日

千葉県銚子市長 越川 信



銚子電気鉄道は、大正12年の開業以来、約100年もの間地域住民の足として、さらには犬吠埼灯台と並ぶ銚子市の代表的な観光資源として親しまれ、全国的にも絶大な知名度を誇る鉄道です。

平成になり年間約100万人を運んでいましたが、人口減少とともに利用客は年々減少し、東日本大震災を契機とした観光客の激減の影響を受けて、近年は年間約35万人にとどまっています。

旅客運輸収入が減少し続け、経営改善が迫られる中、銚子電気鉄道は、駅の無人化や車両のワンマン化などの合理化を進めるとともに、観光列車の運行や企画乗車券の販売など、増収策にも積極的に取り組んできました。しかしながら鉄道会社としての経営は非常に厳しく、現在は、過去に倒産の危機を救った「ぬれ煎餅」をはじめとする食品事業、また、話題性のあるユニークな商品の販売を続け、これら副業の収益により鉄道事業の赤字を補填している状況です。

さらに、令和元年秋の台風襲来と新型コロナウイルスの感染拡大は、銚子電気鉄道の経営に大きな打撃を与えました。4月に発出された緊急事態宣言により観光客の姿は消え、1日の運賃収入が数千円という危機的な状況に陥りました。金融機関からの特別融資により急場をしのいでいますが、非常に厳しい状況が続いております。

このような中、安全な鉄道輸送の確保・維持に向けた取組が課題となっております。設備整備には多額の資金が必要となります。銚子電気鉄道では、国の鉄道施設総合安全対策事業費補助金（鉄道軌道安全輸送設備等整備事業）を活用し、レール、マクラギ、車両の更新などを行ってきました。

しかし、近年は補助金が縮減され、3年に1度実施が必要な

車両重要部検査については、補助が受けられない状況にあります。それ以外の工事についても、令和元年度からは、実質的な補助率が1/3から1/4程度に引き下げられ、事業者の負担が非常に重くなっています。

このため銚子市では、平成30年度には、車両重要部検査の費用に対し、ガバメントクラウドファンディングを活用した独自の追加支援を実施しました。また、令和元年度からは、千葉県の協力も得て、銚子電気鉄道の負担が当初の予定通り事業費の1/3で済むように支援することとしました。

今後も、地域の移動手段の確保と地域振興の重要な資源として、銚子電気鉄道の運行維持に向け、可能な限りの支援を行う所存です。しかし、安全対策の工事に係る経費の増大が見込まれる中であって、市の財政状況を鑑みると更なる大幅な財政支援を行うことは難しい状況にあります。

安全な鉄道輸送の確保は、事業者自ら実施することが原則であることは理解しています。しかし、国民の生命に関わることであり、全国の地方鉄道の厳しい経営環境を踏まえると、国や地方自治体が適切に支援していく必要があると考えます。

銚子電気鉄道では、令和3年度には1編成（車両2両）の重要部検査に加え、多額の費用を要する変電所の更新（約1億円）を控え、資金の調達に向けた努力を続けていますが、非常に厳しい状況です。

つきましては、地域鉄道の取組を支えるため、車両重要部検査を含む対象事業への補助金の確保と、特に、銚子電気鉄道においては、令和3年度に予定している安全運行に向けた変電所の整備に対する補助金の確保について、特段のご配慮をお願いいたしたく要望します。